

2017年11月25日

日本共産党下関市議団  
近藤栄次郎団長殿

下関市議会議員 近藤栄次郎、桧垣徳雄

### 出張報告書

下記のとおり出張しましたので、ご報告いたします。

#### 記

1. 日時 2017年11月15日(水)・16日(木)
2. 出張先 姫路市文化センター
3. 目的 「第12回全国市議会議長会研究フォーラム in 姫路」参加
4. 出張者 近藤栄次郎、桧垣徳雄 2名
5. 学んだことや感想

(1) 今回の研究フォーラムのテーマは「議会改革 ー議会基本条例10年ー」でした。議会基本条例を契機とする議会改革の成果を検証し、課題についてどう取り組むべきか討議する。地方議会が住民の期待と信頼に応え、議会が持つ権限を最大限に発揮し、その役割をより果たしていくにはどうしたらよいかを研究し、学ぶ絶好の機会でした。

(2) 基調講演・中邨章明治大学名誉教授

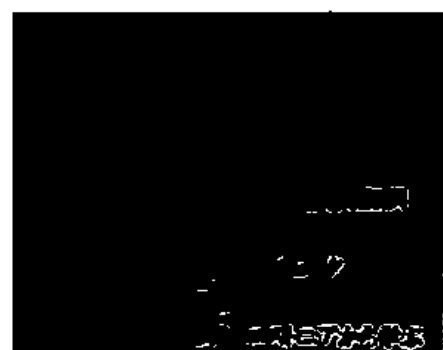
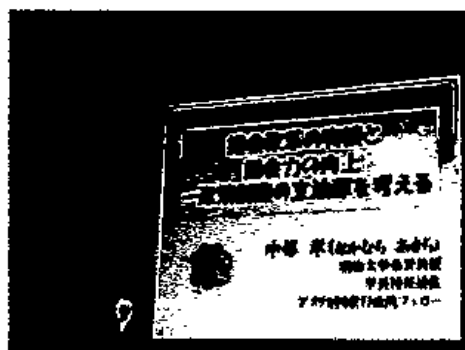
①平成18年に最初の議会基本条例が制定されて10年経過した。議会基本条例を制定することは大きな実績には違いない。条例はスタートに過ぎないのに、条例を制定することに多大なエネルギーを注ぎ込んだ結果、燃え尽きてしまって、その後の進展がない自治体も見受けられる。

②人口減少問題で896自治体が近い将来消滅してしまうという衝撃的な発表があったが、2015年の統一地方選挙での市長選挙で27名・30.3%、市議会議員選挙で246名・2.5%が無投票当選となったことのほうが問題。

③防災は議員とはまったく関係なく進んできている。選挙で選ばれた議員は、当然のことながら住民に責任がある。災害対策基本法で地域防災計画の策定を義務づけられているが、その計画に「議会」が入っていない。地方自治法96条2項に基づいて議決案件にし、議会で審議する積極的なアプローチが必要。

④これからの議員像について、「Look Around」(外部志向)が一番重要という示唆があり、ました。次にITを駆使できる議員。

ITに対応できない議員は今後の展望は暗いと受け止めました。



(3) [パネルディスカッション] 議会改革をどう進めていくか

- ・議員へのなり手不足、投票率低下が問題で、議会は住民に評価されていない。
- ・無投票当選や定数+1しか立候補がないなど有権者に選択肢を提供する選挙になっていない。
- ・議員構成も偏ったままで女性議員は1割超しかおらず、世界的には非常に少ない。職業分布も議員専業を除くと自営業など時間が自由になる人が多い。議会構成が偏ると自分たちの代表だと思えない人もかなり出てくる。選挙にも関心を持ち、立候補者を増やし、競争を活性化させる議会のあり方を考えてほしい。
- ・議会基本条例は、議会改革の中で目標の具体化として大きな意味があった。しかし、その内容より成帝自体が目的化する可能性がある。
- ・議会改革は、議会内ではなく首長との権力闘争だ。首長が優位の二元代表制で、議会基本条例が首長とのたたかいに役に立つように使えるかがポイント。
- ・議会基本条例は実態のある条例という法形式をとり、義務づけした。現段階は次のステップを考える時期だ。議会のあり方、住民、執行機関も含めた地方自治の運営の重要な柱のひとつと位置付け直し、成果を出していけるか。
- ・姫路市議会の例。予算は予算委員会、決算は決算委員会で審議しているが、それ以外に3人以上の交渉会派単位で、市民の要望や意見を踏まえ、勉強会を重ね、制度を含めた予算等の要望を冊子に取りまとめ、10月末ごろに1週間ほどかけ各部局に予算ヒアリングをしている。(十数部局、1部局当たり1~2時間で課長級以上が出席)前年度要望の進捗状況も回答される。決算状況を踏まえ、市長部局の予算検討時期でもあり、効果は高く、重要な取り組みになっている。←下関市議会においても各党派とともに研究を重ねていきたい。非常に参考になる取り組みと考えます。

(4) [課題討議] 議会基本条例のこれまでとこれからを考える

- ・議会基本条例の有無に関わらず、議長選挙で所信表明会を実施した方がよい。市民に見えないところで、いつの間にか投票で議長が決まっているということは、開かれた議会とは言えない。所信表明会は、市民にとって開かれた議会の第一歩となり、議員にとっても議会の進むべき方向の認知・共有になる。(会津若松市議会議長)
- ・議会基本条例制定にあたっては、先進議会の議会基本条例の中で特にやるべき内容を可能な限り盛り込み、制定した。その過程の中で執行部から異論もでたが、地方自治法にできないと規定されていないことはすべて可能であると解釈し、異論・反論を一蹴した。(四日市市議会議長)
- ・議員定数削減を求める請願が出され、二度と削減を突き付けられない議会をつくらなければならないという思いから議長に手を挙げた。議会基本条例の制定を目指すことを表明し、2つの約束をした。1つは学ぶ場づくり。議会事務局職員も一緒に学べる機会をつくり、近隣議会にも呼びかけ、人を招き開催した。2つ目は、定例議会後の正副議長での定例記者会見。議会の今を議長が語ることで、市民にとって少しでも身近な存在になれるようにという思いで行った。←定例議会後の定例記者会見は下関市議会でも行いたいと私は考えます。その記者会見の様子を市議会ホームページにも載せておけば、市政に関心を持つ市民が増えると確信します。(伊万里市議会議長)

(5) その他

①この研究フォーラムが開催された姫路市の歓迎ぶりはものすごいものがありました。会場入り口において市議会議員総出で出迎えたり、ステージ壇上でのパフォーマンスは参加者全員におもてなしの心が伝わったと思います。また、姫路城やその他の施設への優待など姫路市の対応も素晴らしかったと考えます。



②この研究フォーラムが開催された姫路市には「太平洋戦全国戦災都市空爆死没者慰霊塔」が建立されていました。太平洋戦争中の空爆その他による犠牲者で、軍人軍属以外の 50 万 9,700 余の死没者を供養し、その霊を慰めるとともに、世界の恒久平和を祈念するため、昭和 31 年に建立されました。全国戦災都市連盟（現在の財団法人太平洋戦全国空爆犠牲者慰霊協会）が建てたもので、下関市もその一員であることを後日知りました。

